

令和六年度 作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部

入学式 式辞

春風を心地よく感じるこのよき日に、作新学院大学並びに作新学院大学女子短期大学部に入学された新入生のみなさん、おめでとうございます。

ご来賓の皆様には、ご多忙の中を本学の入学式にご臨席を賜り、心からお礼申し上げます。

現在、約四年間のコロナ禍も落ち着きを見せて、今回の入学式が四年ぶりに保護者の皆様にもお越しいただき、通常形で盛大に開催できますことをうれしく感じているところです。

さて、新入生のみなさんは、この清原のキャンパスから、大学生・短大生、大学院生として第一歩を踏み出すことになるわけです。みなさん一人一人が、学生としての自覚と責任をもって学び、行動していく上で、まず理解していただきたい点は、本学の「作新民」という建学の精神です。

「作新民」とは、自己を日々新しくする人間の育成を意味しています。すなわち、自ら主体的に考え、知識を行動につなげ、心豊かな人間として自己を日々変革していくことによって、目の前に次々と生じる課題を的確に解決していく生き方とその育成をめざすということです。また、この建学の精神は、本学の「自学・自習」「自主・自律」という教育理念にも相通じる考え方です。

現在、不透明かつ不確実な時代、あるいは答えのない時代といわれる中で、我が国のみならず世界的規模で大震災、自然災害、感染症、戦争、あるいはAIに代表される技術革新など、今後もさまざまな想定外のこと数が多く起こってくる事が予想されます。そうした時代に対応するために、皆さんには、社会に出る前に多くの経験を重ねる中で、成功と失敗を繰り返し、困難をしなやかに乗り越え回復する力、すなわち「レジリエンス」（精神的回復力）を養っていただきたいと考えています。それは、先に述べた本学の建学の精神である「作新民」にも相通じるものといえます。

これに関連して、みなさんは、「ダンボールアーティスト」という名前を聞いたことがあるでしょうか。十三年前に東日本大震災の時に被災し郡山で避難生活をしていた遠藤昭三さんという方がその人です。避難所の重苦しい雰囲気の中で、少しでも避難している人たちを明るくしたいということから、段ボールの仕切りの壁の外側に絵を描いてみんなを和ませたことが始まりだったそうです。遠藤さんは、後に、次のようなメッセージを私たちに送ってくださいています。

「避難生活を大変だとは思いませんでした。これほど大変な出来事が起きたのだから、これを機に大きく変わろうと思えたのです。

（中略）先のことを考えれば考えるほど不安は大きくなってしまいます。振り返ってみると、未来のことではなくいま目の前のことと一生懸命に生きようとすればおのずと未来は開けていくもの

です。必要以上に先のことを考えてしまうと、どうしても諦めが先だってしまうような気がします。諦めないためにも、いま目の前のことに懸命になる。生かされた生命を大切に、決してあきらめることなく、まわりにあるものや人を大事にしなが、一歩ずつでよいので前に進んでいただきたいと思います。」

ぜひ皆さんも、自己の考え方一つで良くも悪くもなることを心に留めながら、今後目の前のことに一生懸命取り組んでいってください。

また、これからみなさんは、本学において、人間性を育むために、幅広い教養と専門的な知識や技術を学ぶことになります。「学ぶ」ということは本来楽しいものであるはずであり、連続的なものです。批判的精神を持って次々と疑問がわき、それが解決できたときのうれしさをたくさん味わってください。また、大学という場は、様々な人間が集い、語り合い、学び合い、互いに切磋琢磨していく場でもあります。ぜひ自ら進んでそうした場に参加し友人をたくさん作っていきましょう。さらに、自分はどのような存在であり、何に向かって進んでいくべきなのかなど、じっくりと自己理解をも深めていってください。

こうしたことを皆さんが実現していただけるために、我々教職員は、学修および生活における安全・安心な環境づくりを第一に考え、授業や様々な行事や活動において、これまでの経験と反省を踏まえながら充実したものを皆さんに提供し、全面的に支援・援助して参り

ます。

一方、本学では、みなさんの夢を叶えるために、さまざまな免許や資格を取得できるプログラムが数多く用意されています。こうした免許・資格の取得やボランティア活動やインターンシップといった社会活動、あるいは学生が自主的に取り組む課外活動やサークル活動といった学外における様々な活動にも積極的に挑戦して、多くの人間と交流しながら自分の可能性を広げていてもらいたいと思います。

結びに、本学は、自然環境にも恵まれ、明るく自由な雰囲気の中で教育と研究が行なわれ、在学生も活発に活動しています。ぜひみなさんも、本学のこの自由の精神と実学の精神が溢れる雰囲気の中で、学問に勤しみ、実践知を蓄え、夢の実現に向けて果敢に挑戦する人間として成長していくことを教職員一同心から大いに期待し、式辞と致します。

令和六年四月五日

作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部

学長 渡邊 弘